

第9回ビブリオバトル福島県大会中通り地区予選会



9月3日(日)にパルセいいざかにおいて行われた中通り地区予選会では、17名の高校生による書評合戦が行われました。ビブリオバトルでは、観戦者が「どの本が一番読みたいと思ったか」という基準で投票し、チャンプ本を決定します。発表者は、5分間で本のよさや心に響いた文章などをユーモアを交えたり観戦者に問いかけたりしながら紹介していました。会場全体が素晴らしい発表に熱心に聞き入り、本の魅力にたっぷり浸ることができるよい時間となりました。

チャンプ本(優勝)	「人魚の眠る家」	横田 塔吾	あさか開成高等学校	知的書評合戦 ビブリオバトル
準チャンプ本(準優勝)	「三日間の幸福」	鈴木 珂琳	白河旭高等学校	
優秀賞	「僕たちにデスゲームが必要な理由」	佐久間 陽菜	田村高等学校	
	「流浪の月」	金子 莉桜	福島東稜高等学校	
	「滅びの前のシャングリラ」	加藤 愛莉	福島東稜高等学校	
	「三日間の幸福」	鳴原 龍星	湖南高等学校	



11月25日(土)にとうほう・みんなの文化センターで行われた県大会の中学生の部に県北地区からは2名が出場しました。平野中学校の森優芽さんが「ベノム 求愛性少女症候群」、二本松第二中学校の佐藤梨乃さんが「成瀬は天下を取りに行く」を紹介し、佐藤さんが紹介した本は準チャンプ本に輝きました。

学校教育課(管理担当)「ハラスメント防止のために」

今年度も県内でハラスメントによる懲戒処分が発生しました。校長が職員の年休取得に関して、「業務上必要かつ相当な範囲を超える言動」を行った事案でした。また、ハラスメント調査では、管理職からばかりでなく同僚からの言動に関する相談も多く寄せられました。

○ ハラスメントの防止に関する指針の内容をよく理解すること

ハラスメントを防止するためには、まず、指針の内容を確認し、ハラスメント行為についての理解を深めておくことが大切です。「業務上必要かつ相当な範囲を超える言動」とはどんな言動で、ハラスメントを起ささないためにどんなことに留意すべきかについて、校内服務倫理委員会などの研修の機会をとおして、理解を深めてください。そうすることで、自分の言動が指針において定められているハラスメント行為に該当する可能性がないか振り返ることができるようになり、ハラスメント行為の防止につながっていくのです。

○ 風通しのよい職場をみんなでつくっていくこと

もう一つ大切なのが、風通しのよい職場づくりです。今、勤めている職場について振り返ってみてください。今の職場に教職員同士が何でも話し合える雰囲気はあるでしょうか。問題があった時に助け合う協力体制はできているでしょうか。一人一人の考えが大切にされるとともに、互いの立場を尊重しながら思いやりのある言葉を掛け合っているでしょうか。教職員同士のコミュニケーションを密にして、「風通しのよい職場」をつくり、職場のセーフティーネットとしての機能を高めていくことで、ハラスメントを防止していきましょう。

<臨時的任用教職員(講師等)に採用可能な人材確保に向けて>

現在、各種補充の講師等が不足しており、講師等に採用可能な人材を探しています。情報がある場合は管理職にお伝えください。

教育広報

発行所



県北の教育

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

☎024-521-2813

発行者 原 孝行

巻頭言

「小学3年生の思い出」



県北教育事務所長 原 孝行

会津育ちの私は、冬の体育の授業はスキーだった。小学3年生の時は、校庭の平地で、左右のスキーに交互に体重をのせ、片足ずつで滑走する、いわゆるスケータイングの練習だった。ある日、授業の最後に、数十メートルの距離をスケータイングで競争することになった。スタートラインに横一列に並ぶと、左隣には担任のI先生がいた。I先生はやさしい女性の先生で、1、2年の時の担任の先生が厳しかったせいもあってか、大好きな先生だった。スタートするとI先生との先頭争いになり、ゴール近くまで競り合いは続いたが、僅かな差で私が先にゴールした。I先生に勝てた喜びは大きく、得意になって満足して下校した。多少の自信にもつながり、その後生きていく上で大きな糧となった。

話は変わって、1973年に出版された大村はまさんの『教えるということ』は、私たちに多くの示唆を与えている。私が初めてこの本を知ったのは34年前の初任研の時で、「仏様の指」のお話を教えていただいた。

あるとき、仏様が道ばたに立っていらっしゃった。すると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。しかし、大変なぬかるみにはまってしまい、懸命に引いても車は動かない。汗びっしょりになって男は苦しんでいた。その様子をしばらく見ていらっしゃった仏様は、ちょっと指でその車におふれになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けて、からからと男は引いていった。

大村さんの恩師である奥田先生はこのよう

に話して、「こういうのがほんとうの一級の教師なんだ。男はみ仏の指の力にあずかったことを永遠に知らない。自分が努力して、ついに引き得たという自信と喜びとで、その車を引いていったのだ」と語りました。そして、大村さんは、「もしその仏様のお力によってその車がひき抜けたことを男が知ったら、男は仏様にひざまずいて感謝したでしょう。けれども、それでは男の一人で生きていく力、生きぬく力は、何分の一かに減っただろうと思いました」と語られている。

ある時、I先生は私にわざと負けたのではないかとふと頭をよぎった。冷静に考えると、ずっと自分の力で勝ったと信じて疑わず生きてきたことに苦笑いしつつ、I先生は私に自信を付けさせようとわざと負けたのだ、と思うようになった。み仏の指の力にあずかったことに気付いてしまったが、生きる力が減ることはいささかもなく、感謝の思いで胸が一杯になった。単に大好きだったI先生を教師として尊敬するようになった。これを機に、厳しかった小学1、2年時の担任の先生を、しっかりと生活習慣やルールを身に付けようとしてくれたのだ、と思うようにもなった。小学生当時の私には到底思えないことである。

教師は、子どもたちの人生に大きな影響を与え、子どもたちの成長を直接感じることができる素晴らしい職業である。そして、教師の使命が、子ども一人一人に生き抜く力を身に付けさせることは今も昔も変わりはない。思うようにいかないことの方が多いのかもしれない。でも、教師の働きかけや言動が、子ども一人一人の人生の糧になっていくことを思うと、頑張ろうと思えてくる。

教師になってよかったなあ。

学級・授業づくりセミナー

7月31日（月）、川俣町立川俣小学校を会場に学級・授業づくりセミナーを開催しました。セミナー講師の実践発表を通して、学力向上に向けた学級づくりや授業づくりを振り返り、改善の視点や方策について考える機会になりました。今回は、特別支援教育の講座を初めて参加者全員に受講していただき、指導のポイントを紹介しました。

【セミナー講師】

国語	秋葉 征典（保原小）	渡部 美穂（本宮二中）
社会	内藤 愛（大山小）	阿部 寛之（県北中）
算数・数学	矢野 浩（荒井小）	村田 利公（清水中）
理科	蒲倉 賢（福島三小）	紺野 繁幸（福島三中）
外国語 英語	阿部 淳子（醸芳小）	桜井 正義（二本松一中）
学級活動	浦山かおる（福島一小）	細谷 孝幸（信夫中）
道徳	菅野 朱美（大笹生小）	菅野 理恵（松陽中）
特別支援	加藤 綾子（梁川小）	平山真由美（岳下小） 渡部 貴子（本宮一中）

【参加者の声】

- ・「まとめ」と「振り返り」の違いが再確認できた。まずは子どものゴールの姿をはっきりとさせて授業構想をしていきたい。
- ・子どもの考えを予想し、着地点をはっきりさせた授業を構築していきたい。
- ・教材分析ノートの作成と、ゴールをイメージした授業構想は、すぐに取り入れたいと思った。
- ・「〇〇しないと△△できないよ」ではなく、「〇〇すると△△できるよ」の声かけ、早速実践したいと思った。
- ・先生方の実践を知ることができて、たいへん勉強になった。子どもの「学びたい、知りたい」を引き出す授業をしたい。

みんなで作る特別支援教育

地域支援体制整備事業として、特別支援学校のセンター的機能を活用した相談・研修支援を通年でコーディネートしています。今年度は2歳児から高校3年生まで、幅広い支援対象の幼児児童生徒について相談支援を行いました。障がい特性に応じた指導・支援の方法、支援機器の扱い方、校内支援体制の整備の仕方、家庭への働きかけ方、進路指導など、障がい種やライフステージに応じて様々な依頼がありました。中には継続して相談支援を行ったり、相談支援から校内の研修支援へとつなげたりしたケースがありました。小・中・高等学校の1年生に関する支援の依頼が多く、相談支援ファイルや個別の教育支援計画の引継ぎによる継続した支援の必要性を強く感じています。

今後も、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の指導・支援の充実に向けて、地域支援体制整備事業を御活用ください。

各種事業・研修の取組を紹介

要請訪問Ⅰ、Ⅱ

要請訪問Ⅰでは合計65校園（幼稚園等7園、小学校41校、中学校17校）で、それぞれの学校園の特色を生かした教育活動を参観させていただきました。また、校内授業研究会等における指導助言として要請訪問Ⅱものべ35校園から依頼がありました。要請訪問Ⅱの依頼は2月まで受け付けておりますので、今後も御活用ください。

県北教育事務所では、今年度も「振り返りの徹底」を指導の重点としてきました。振り返りの効果が認められ、現在、多くの学校で取り組まれています。子どもが学びを自覚できるように、さらに振り返りを充実させていきましょう。

子どもたちの振り返りの言葉

- ・算数科「次は九九の範囲を超えて、もっと大きな数の公倍数を求めてみたい。」
- ・体育科「バランスボールを足で支えながら立つと立ちやすかった。」
- ・道徳科「私は、言いたいことがあっても相手が強くて言えないことがありました。これからは、自分の考えを伝えて、関係を深めていきたいです。」

各種授業研究会

小中英語パートナーシップ事業では、拠点校の本宮市立本宮まゆみ小学校、本宮第一中学校でそれぞれ公開授業を行いました。中間指導を取り入れて言語活動を繰り返すことにより、内容を充実させながら友だちとやり取りする子どもの姿が見られました。

また、算数・数学・理科の各コアティーチャーによる授業研究会を伊達市立上保原小学校（算数）、福島市立野田中学校（数学）、福島市立三河台小学校（理科）、伊達市立桃陵中学校（理科）で開催しました。問題発見・解決の過程を意識した授業により、学びに没頭する子どもたちの姿が見られました。

【参加者の声】

- ・悩んでいた生徒がペアで交流した後、自分の表現を修正し、再度他の生徒に説明している姿が印象的でした。普段から考えをアウトプットする場を設けることが大切だと再確認しました。
- ・棒グラフの見方が明確に示され、児童がそのことをよく理解していました。そのため、児童は終始考えを広げ、深めていました。

専門高校生による小中学生体験学習応援事業

小・中学生が専門高校を訪れ、授業や実習を体験しました。

【福島商業高校】←梁川小学校 6年生、大笹生小学校 5・6年生、西根中学校 2年生
＜体験学習＞ 電卓、パソコン、作品創作、ラッピング、ビジネスマナー体験

【福島明成高校】←大山小学校 6年生、吾妻中学校 2年生
＜体験学習＞ クッキー製造体験

【福島工業高校】←梁川小学校 6年生、吾妻中学校 2年生
＜体験学習＞ 旋盤作業見学、ペーパークラフト体験、植木鉢・スプレーカー・テーブルタップ製作

【二本松実業高校】←二本松南小学校 6年生、岩代中学校 1～3年生
＜体験学習＞ 名前入りキーホルダー製作、LEDライト製作、住宅模型製作とまちづくり

【小・中学生の感想】

- ・この体験は、きっと年齢が上の人と話すときにも役に立つと思いました。
- ・ものづくりの楽しさを知ることができました。
- ・高校進学に少し不安がりましたが、今は楽しみになりました。
- ・進路に対する視野が広がり、選択の幅が広がりました。

新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト

学習の基盤となる児童生徒の情報活用能力の育成に向けて、ふくしま「未来の教室」授業充実事業、次世代のためのメディアリテラシー育成事業を実践協力校において進めています。

ふくしま「未来の教室」授業充実事業

伊達市立伊達東小学校、桃陵中学校が1人1台端末を効果的に活用した授業を公開しました。自身の動きを動画で撮影して振り返る授業や、表計算ソフトに複雑な計算は任せて、その結果を基に思考を深める時間を十分にとる授業など、子どもが文房具の1つとしてICT機器を活用する姿が見られました。

次世代のためのメディアリテラシー育成事業

大玉村立大山小学校、玉井小学校、大玉中学校が、「自他の権利の尊重」「情報社会での責任」「危機回避」「安全な利用」の視点に基づいて、「ふくしま情報モラル診断」を活用した授業や、SNSによるトラブルが発生する仕組みを考える授業など、情報モラル教育を推進してきました。

キャリア教育推進事業

10月19日（木）、福島市立杉妻小学校で実践研究発表会を開催しました。公開された5学級の授業では、理由を付けて自分の考えを話す姿や、子ども自ら自然と対話する姿など、教師だけでなく、子どもたちも活動のねらいを捉えて主体的に学ぶ姿が見られました。キャリア教育の要としての特別活動の意義を教員間で共有し、学校全体でキャリア教育の視点を大切にしたい指導を積み重ねることの有効性を確認することができました。

道徳教育総合支援事業

11月10日（金）、道徳教育地区別推進協議会を福島市立飯野小学校で開催し、道徳科、生活科、総合的な学習の時間の授業を公開しました。家族からの手紙を授業で活用したり、警察官をゲストティーチャーに招いたりするなど、「家庭・地域と共につくる道徳教育」を推進してきた取組を発表しました。

生徒指導の充実

不登校・いじめ等対策推進事業域別シンポジウムにおいて、スペシャルサポートルーム（SSR）設置推進校である福島市立信陵中学校の山田光裕先生によるSSRの効果的な活用等の講義を行いました。令和4年12月改訂の生徒指導提要や令和5年3月に取りまとめられたCOCOLOプランを根拠としてSSRの在り方やその効果、課題等を具体的な取組を基に紹介しました。以下はその主なものです。

- 生徒自身が時間割を決定する。
 - 生徒の現状把握と支援のためのSSR委員会開催
 - 地域や関係機関と連携した「チーム学校」
- 各種研修会において、生徒指導提要改訂のポイントとして「支える生徒指導」「学習指導と生徒指導の一体化」「生徒指導体制の構築」について確認しています。今後も日々の声かけや称賛等、発達支持的生徒指導の充実を図りましょう。